

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( ~~認知症対応型共同生活介護事業所~~ ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホームみのり中の島・ひまわり館	評価実施年月日	平成 21年 1月 27日
評価実施構成員氏名	簾内 裕子 佐々木 育子 太田 美佐子 大塚 裕司 宮脇 マヤ 野坂 久美子 藤田 祐希 山本 彩加		
記録者氏名	簾内 裕子	記録年月日	平成 20年 12月 20日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>外部評価での評価に基づき、地域密着型の意義を再確認し、事業所、職員全体が実践していくための理念を作り上げている。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念を申し送り時に述べ、職員全体が実現に取り組んでいる。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>地域の方々には町内行事参加などで、又、家族の方々にはみのり通信や面談などを通して理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>町内催し事などに積極的参加し、また散歩や買い物などでの挨拶を交わすことで、グループホームへの垣根を取り除き、気軽に立ち寄ってもらえるよう努めている。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会の催し事や日帰り旅行、清掃など積極的に参加し地元の人々と交流することに努めている。</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>町内の方々のお年寄りの介護や、介助についての悩みの相談をお受けしている。</p>	○	<p>同じ悩みを抱えている、地域の高齢者の方々や家族との団体的な交流なども、考えていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を全職員で行い、評価を活かして改善に向けて取り組んでいる。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1度開催している運営推進会議の議事録を全職員が確認し、サービス向上に活かしている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	管理者が市区の担当者に機会あるごとに訪問し、情報提供を行いサービスの質の向上に取り組んでいる。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	管理者は地域権利擁護事業や成年後継人制度の研修に参加し、それらの情報を職員と共有している。	○	今後この制度が必要な入居者がいる場合は、活用できるよう支援していきたい。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	身体拘束虐待防止委員会を立ち上げ、全社的に虐待防止の徹底に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時や解約時に十分な説明を行い、不安・疑問点に答え理解してもらえるよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見、不満、苦情を自由に表せる雰囲気作りに努めると共に、意見等があった場合は職員間で解決に向け話し合い、運営に反映させている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月15日に預り金による金銭出納帳のコピー、領収書原本を、家族へ郵送し報告している。暮らしの様子は来訪時や日々の電話などで、変調の場合は即日電話で報告している。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	無記名のアンケート用紙を送付し、自由に意見、不満や苦情を記入していただき、それをミーティングで話し合い運営に反映させている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	社内ホームページで自由に意見交換が出来る体制があり、運営者にも直接、意見や質問などが出来るようになっている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	入居者や家族に状況の変化が生じた際の要望には、柔軟な対応が出来るように話し合いは常に行っている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動はほとんど無く、また入居者の混乱を防ぐため職員の異動は最小限に抑え、止むを得ず異動がある場合は、入居者に影響を与えないように協力し合い介助にあたっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>外部での研修の参加を支援していると共に、会社内部にも研修委員会を設置し、月1回の研修を行っており働きながらスキルアップが出来るように支援している。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>外部での研修等に積極的に参加させており、同業者との交流による情報を基にサービス向上に取り組んでいる。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>ストレス緩和に向けた研修を外部から講師を迎え行ったり、全職員を対象とした面談を定期的に、または希望にても行い、ストレス軽減に取り組んでいる。</p>	
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>資格や報奨など、手当等が充実しており、また賞与は査定制度を設け個々の努力に応じているため、スキルアップの励みになっている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>事前面談で本人の生活状況を詳しく正確に把握するよう努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>家族からのお話を十分に傾聴し、内容全体を受け止め信頼関係を築くように努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時は必要な支援の見極め、他サービスなども含め対応に努めている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	焦らずゆっくりと馴染んで頂くため、センター方式の情報シートや、本人・家族と都度、協力相談しながら事業所としてできることできないことも話し合い、納得してサービスを利用して貰えるように努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	常に本人の立場になり、一方で学ぶ立場にもなりながら支えあう関係を築いている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	常に家族と情報を共有し、相談しながら本人を支えていくように努めている。	○	ご家族と常に連携し、情報を共有することにより協力体制が出来つつある。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人とご家族の関係を見守り、また共感しながら、より良い関係が築いていけるように支援している。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	来訪者が来やすい自然な雰囲気を作る事と共に、本人が大切にしてきた馴染みの環境作りにも努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	居室にこもりがちの方には声がけをし、お茶、おやつ時間などに他入居者さん同士の会話がスムーズに運ぶように間をとっている。	○	食器洗いなどの本人の出来る事を分担して行うことで、入居者さん同士の関わりがもてるよう支援している。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービスが終了しても何かあったらいつでもご相談くださいとの声がけはかかさず行うようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の暮らしの中で本人の思いや希望を把握し、なるべく意向に沿えるように努めている。	○	希望時は個別の外食や買い物の支援を行っている。また時には家族等の協力を得ながら、本人の意向に沿うように支援している。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式の情報シートなどでおおよそ把握しているが、入居後も本人の何気ない普段の会話や、家族との面談から得た情報を記録に残すようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	常に見守りし、心身の変化や体調不良については報告や記録をすることで心身状態を職員全体が把握出来る体制となっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	アセスメントの実施により、本人が自分らしく暮らせるように家族・関係者の意見を反映した介護計画を職員全員で話し合い作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	基本的に3ヶ月ごとに実施しているが、状況に応じて変化時に見直している。	○	本人・家族・管理者・担当職員とともに面談を行い、新たな希望・意向を見出し介護計画に生かしている。
38 ○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	食事、水分量、排泄等、身体状況や日々の暮らしの様子をケース記録に記載し、職員が情報を常に把握出来るようにし、家族とも情報は共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人、家族の状況に応じて通院や送迎は臨機応変に行っている。時には階下の通所介護事業所と協同で行事を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員やボランティアの方が定期的に来訪している。民生委員の方には運営推進委員会の構成員となってもらっている。		
41 ○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	町内会の祭りや催し物などに積極的に参加し地域の方々とも交流を行えるよう支援している。また訪問理美容サービスを利用している。		
42 ○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域包括センターの職員が参加するようになって情報交換がスムーズになり協力体制がととのっている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月に2回、提携クリニックの医師の往診を受け、緊急時にはすぐに対応できる体制になっている。但し本人や家族が希望する医院への受診は職員が同行するなどの支援をしている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	本人や家族と相談し、情報共有しながら、認知症の専門医への受診、治療を受けられるよう支援している。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	入居者を良く知る訪問看護師が、週に1回来所している。職員と看護師は、気軽に相談できる関係であり、日常の健康管理や状態の変化に応じ対応できるよう支援している。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院先にはお見舞いに行き状況を把握する。出来るだけ早期退院できるよう医師や家族とも相談し、戻ってからのリハビリ等支援の準備を行っている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合や終末期の対応を、家族・医師・看護師を交え話し合い、統一した方針で対応するようにしている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化や終末期の利用者に対しては、本人や家族の意向をふまえ医師・看護師との連携をとりながら、安心して過ごせるよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>これまでの暮らしやケアの継続が保たれるよう、プライバシーに配慮しつつ本人や家族と十分な話し合いや情報交換を行い、それぞれの生活を尊重できるよう支援している。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>全職員が個人情報の確保を徹底し、利用者の尊厳を大切にしている。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>コミュニケーションを多くとり、表情を観察し、入居者本人が自分で決められるような声かけ・配慮をしている。入居者の訴えを素早く察知し、安心して生活できるよう支援している。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>買い物や散歩など、個々の状態や思いに配慮し、できるだけ希望に沿うよう柔軟に対応している。また、得意な事を発揮し、生かせる場面づくりに努めている。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>訪問理美容にて、入居者本人と相談しながらおしゃれができるよう支援している。家族に髪をカットしてもらっている入居者もいる。外出時や希望時には、お化粧品やマニキュアを楽しんでもらえるよう支援している。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食事が楽しみなものになるよう、入居者・職員から意見を出してもらっている。一緒に食事準備をしながら、料理について利用者から色々なアドバイスをを受けたりしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	タバコは防災上全館禁止の為に協力頂いている。お酒は室内行事や外出行事の時の希望により、体調なども考えながら楽しんでもらっている。コーヒーの自動抽出機やお湯のポットをホールに置き自由に飲めるようにしている。	○	おやつに関しては15:00に毎日提供している。それ以外にも体調のことを考え医療機関・家族とも相談し、食べ過ぎを防ぐ為個人のおやつをホームに預け、食べたいときに居室で食べている方もいる。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	職員が各入居者の習慣やトイレ時間を把握し、必要時にトイレ誘導をすることでトイレでの排泄を促すと共に失禁を予防している。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	曜日や時間帯に関しては職員が決め入って頂く様お願いしている。入浴を拒否される入居者に対しては、それぞれ言葉かけや対応を工夫し入居者に合わせた入浴支援を行っている。	○	可能な限り入居者の希望に合わせた入浴支援を行っていききたい。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	入居者の一日のペースを崩さぬよう努め、夜間眠れない場合は居室やリビングで話を聞き不安を和らげる様努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	ベランダでの花や野菜作りの世話、繕い物、掃除、食事の支度などの個々の役割支援、また塗り絵、ゲーム、ビデオ鑑賞、外出行事などの楽しみごとなど、積極的な場面作りで支援している。	○	レクリエーションを多く取り入れ一人ひとりの得意分野を発見しケアに生かしていきたい。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	職員が買い物に同行し、本人がおやつや好きなものを買、支払いするまでの過程を見守りしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	その日の天候や入居者の体調・様子をうかがい、外に出る機会を多くする様心掛けしている。	○	全員での外出の他、個々または少人数の希望に応じた外食、日帰り温泉などを実行している。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	遠方への外出については事前に計画を立て、体調管理に気を付け、場合によっては家族の協力を依頼し、職員の勤務を調整して行っている。	○	利用者の思いや願いを叶えられる様、支援して行きたい。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話の取り次ぎ、手紙や葉書のポスト投函等、入居者の希望時に対応している。	○	電話の場合は、人目を気にしないでお話しもらう様、子機を使い居室で話して頂いている。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族・馴染みの人達が、いつでも気軽に訪問できる様心掛け、笑顔でお迎えし、明るく挨拶している。	○	来訪者には、「おはようございます」「こんにちは」「こんばんは」で挨拶し、お帰り時には「ありがとうございました」「お気を付けてお帰り下さい」と笑顔で明るく挨拶する様心掛けしている。
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	勉強会を事業所内や会社全体で実施し、職員の共有意識を図っている。	○	毎月のミーティング等で各個人のケア方法を振り返り、身体拘束が無かったか確認している。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	入居者が玄関に近づいた場合は、声をかけ様子をうかがい、場合によっては一緒について行く等、安全面に配慮した見守りを行っている。	○	居室の鍵については、不安からかかせる入居者もいるが、職員の声かけにより入居者の話を傾聴、共感し不安を取り除き、鍵を開けて頂く様、取り組んでいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	プライバシーに配慮しながら、入居者の動向を熟知し、常に安全を確保するよう努めている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	個々の介護度に応じて鉋や爪きりなどの刃物は事務所で預かり必要の際、使ってもらっている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	社内・社外研修で、救命、防災等の知識を学び個々の自己防止に取り組んでいる。	○	薬に関しては、誤薬や飲み忘れがないようミーティングで徹底的に話し合い、確認強化を実施し服薬事故が起きないように、全職員が真剣に取り組んでいる。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	応急手当や初期対応の訓練を研修委員が中心となり全社的に行っている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的に避難訓練を行い、町内会でも地域との協力体制を話し合っている。	○	夜間を想定した避難訓練を今後行う予定である。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしながら対応策を話し合っている。	家族との連絡を密にし、リスクに対しての説明を行い個々の暮らし方を大切にしながら対応策を話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	一人ひとりの表情や体調に日々留意している。体調変化がある時は、往診医や訪問看護師と連携し対応に努めている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方されるごとに必ず説明書を読み、内容確認する。薬の変更は専用ノートに記載し、職員間で情報共有している。服薬後症状に異常があるときはすぐにドクターに連絡し指示を受ける。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分を普段から積極的に取るようにしたり、体操を行っている。また牛乳や食物繊維の多い食品を提供するなど、自然排便を促す工夫を個別に行っている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後に歯磨きの声かけや誘導を行っている。就寝前は義歯を洗浄し、専用ケースに保存するよう支援している。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個別のケース記録に水分・食事量を記録し、状態把握に努めながら支援している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	社内に感染症予防・防止委員会がある。入居者・職員・来訪者に対する入り口での手洗いとうがいの励行や、全入居者・全職員のインフルエンザ予防接種など、全社的に感染症予防に取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板や布巾等毎日消毒し、盛り付けもグローブを使っている。冷蔵庫・冷凍庫の食材の管理を常に行い、衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関のウェルカムボードを季節ごとに替え、毎月のみり通信を貼り、普段の様子がわかるよう努めている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ホールには植物や花を飾り、テレビも常につけばなしにしないよう、入居者の様子を見ながらメリハリをつけている。季節を感じられるような飾りつけや運動機器を設置し、楽しみながら体力維持ができる環境作りをしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	畳にテーブルや座布団、ラジカセ等用意し、好きな音楽を聴きながら談話したり、外を眺めたり、塗り絵や手芸等を楽しむ事ができるような場所の工夫をしている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅で使っていた家具やなじみのある物を配置し、落ち着いて過ごせるような雰囲気になっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎日、業務日報に昼・夜2回温度・湿度を記録し、その都度調節している。冬期間は加湿器を使用し、乾燥しすぎないよう気をつけている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下・トイレ・浴室に手すりを設置。入浴時には滑り止めマットを使用し、歩行器使用者がホール内で歩行訓練できるよう、通しやすいスペースを確保している。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレには『お手洗い』の表示、浴室には『湯』の暖簾をかける等、一目でわかるよう工夫している。居室入り口脇には、自分の居室と認識できるように、目印となる物を入れるボックスが設置されている。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	春から夏にかけて花やトマト・いちご等をベランダのプランターに植え、入居者に水やりや手入れ、収穫等してもらい、暖かい季節にはベランダに置いてあるベンチで談話やお茶のみが出来るようになっている。	○	町内の公園の草取りには一部の入居者が参加しているので。建物周りの草取りも入居者と行いたい。



V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> ②家族の2/3くらい <input type="radio"/> ③家族の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>○①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>○①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>○①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>○①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載）

入居者個々の尊厳を守りながらも家庭的で楽しくある為に、職員は決められた業務をこなしながらも、自由で個性を活かした介護を行っております。規則が優先し笑顔がこわばっている入居者は居心地が悪く、また、ご家族は来訪しづらいことになってしまおうと思っています。地域行事参加などは、地域の方々から車いすの場所の提供を受けたり、温かい言葉をいただいたりと、地域の協力を得ながら、介護度の高い方でも希望に応じ参加出来るよう全職員で取り組んでいます。個々の『満足・喜び・幸福』を、職員全体で取り組んでいます。